

米田のFP通信



ちょっと気になる「保険」や「年金」についての話題をお届けします。



ご挨拶

今年の夏も猛暑が予想されています。熱中症対策、紫外線対策など心がけておきたいですね。

またそろそろ台風への備えも必要な季節です。

人的被害 93名

家屋被害 25,262件

これは昨年6月初～7月末に発生した大雨による被害件数です。風水害は地震と違い事前に備えができる災害です。人的被害を防ぐためにハザードマップや避難経路の確認、避難用の持ち出し品のチェックなどできる準備を事前しておくことが大切です。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

老後に不安を感じていない人は少ないのではないでしょうか？ 一方今の高齢者の68.5%が「生活の心配は無い」と感じているようです。

その理由は・・・



1999年からFP業務を行っています。現在はIFAとして最適な金融商品の選定やアドバイス、ライフプラン相談、事業承継や相続、保険相談を中心に活動しています。年間200人以上の方や、企業・医療法人や個人経営者まで幅広くお金のご相談をさせていただいています。

株式会社リスマネジメント・ラボラトリー 大阪支店

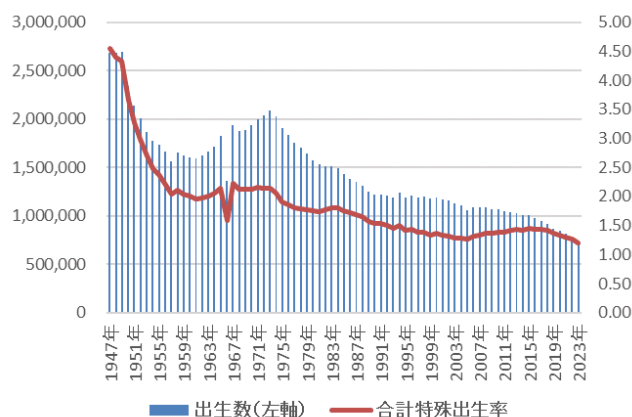
〒543-0018大阪市天王寺区空清町8-33 大阪府医師協同組合東館 3階

電話06-6766-1511 携帯090-1152-3889 メールyoned760@rml.co.jp

出生率 1.20

厚生労働省は、2023年の「人口動態統計」を先月公表しました。人口動態調査は出生数、死亡数、死因、婚姻数、離婚数などを時系列で表しています。

その中で気になったのは出生数と死因です。下図は1947年以降の出生数と出生率の推移です。250万人以上だった出生数は2022年には80万人を割り込み2023年には72.7万人まで減少しました。出生率（一人の女性が一生の間に産む子どもの数の指標）も1.20と最低を更新しました。



もう一つ気になったのが死因です。死因に占める自殺の割合は15歳～29歳は50%以上、30歳～34歳が41%、35歳～39歳が29%です。

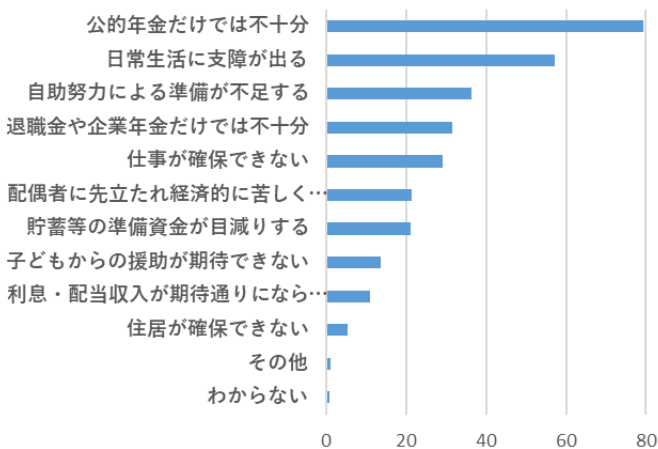
無償化なども大切な政策だと思いますが、将来に希望が持てる社会を作っていく必要がありますね。

ちょっと気になるお金のコラム

老後が不安な現役世代

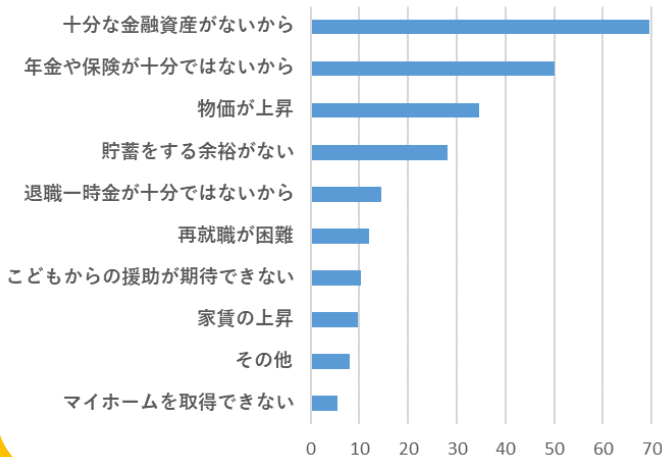
平均寿命が延び老後が長くなった今、老後になんの不安もない人はいないのではないのでしょうか？

2022年の生命保険文化センターの「生活保障に関する調査」によると老後に不安を感じている人は全体の82.2%でその内容は以下のようなものでした。



2番目の「日常生活に支障が出る」以外は経済的な不安です。

別の調査でもほぼ同様の結果です。「家計の金融行動に関する世論調査〔単身世帯調査〕（令和5年）」（金融広報中央委員会）によると77.9%の人が老後に不安を感じていてその内容は以下のようなものでした。

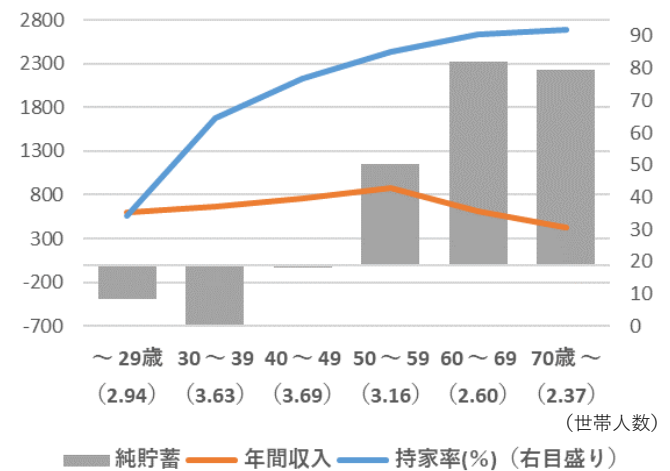


令和5年の調査ということで物価高が心配な人も増えてきているように思います。

65歳以上の68.5%が「心配ない」

高齢者白書（令和5年版）によると65歳以上の人の68.5%の人が心配をしていないようです。「老後資金2000万円問題」などの懸念があるなか釈然としない現役世代の人もあるかもしれませんね。

高齢者世帯と現役世代で大きく異なるのが貯蓄残高です。下図は世代別の収入、持ち家比率、純貯蓄（貯蓄から負債を引いた額）を表しています。



40歳代までは子育てや住宅ローンなどで貯蓄が無い一方、60歳以上では平均2000万円を超える純貯蓄があることがわかります。

2000万円を超える貯蓄と年金があればそこまで不安にならないというのもうなずけるのではないのでしょうか？ 十分な貯蓄の有無が老後の安心につながるものがここからもわかりますね。

インフレを意識する必要がある時代になり、さらに退職金が従来のように見込みにくい状況では今まで以上に時間をかけて少しずつでも準備をしておくことが大切なのではないのでしょうか？